



## <各学年宿泊行事>

1年生は今年度「防災」をテーマに宿泊体験を行いました。スローガンを「深めよう防災『知識』と『意識』と仲間の絆」とし、県内の防災に関する施設での体験学習を行いました。その後、箱根の里で1日の研修を振り返り、朝食では「防災食」を食べるなど災害時の体験をすることができました。何時起きてもおかしくない自然災害に対しての知識を深めると共に地域の一員として活動できるよう意識を高めることができた宿泊体験になりました。

昨年、大規模地震対策特別措置法（大震法）見直しを含めた防災対応を検討してきた中央防災会議の有識者ワーキンググループが、現行の東海地震対策が前提にしている「2～3日以内に地震発生の恐れがあるという確度の高い直前予知は（現時点では）できない」と結論づけました。

このことにより、東海地震対策や大震法を抜本的に見直す必要性が明確にされました。近年、東日本大震災や熊本地震の被災地では避難所が開設されましたが、その時に中学生は避難所運営の大きな戦力として貢献する姿が報道されました。



2年生は下田市田牛地区での、海をテーマにした自然体験学習を行いました。「元気に本気で自然を愛す 絆よ深く 我らの夏」をスローガンとして田牛の民宿に分泊し、初日は下田市教育長からの歓迎の言葉をいただいた入村式に続き、学年全体で「二丁間の磯での自然観察」、その後グループに分かれて人間が生活するうえで必要になる漁船体験では、実際の漁船や漁業の様子を目の当たりにすることができました。また、驚くほどせりあがった砂浜でのサンドスキー、そのすぐ近くにある不思議な竜宮窟。いずれも自然が作り出したものですが、自然の偉大さを感じ取ってくれたことと思います。民宿ではおいしい夕食の後の「ふれあいタイム」では民宿のおばさんやおじさんとの交流を深めました。翌日は民宿での「鰯の干物づくり」や「学級対抗レク」を綺麗な砂浜で行いました。忙しいスケジュールでしたが、海を舞台にした豊かな自然に触れたり、人々の生活の様子に触れたりすることができ、三島では決して体験できない貴重な学習になったと思います。

3年生は、5月23日（水）から25日（金）まで、2泊3日で関西方面への修学旅行を行いました。

修学旅行生が訪れることは、あまり多くないかもしれない1日目の大原の散策では、少し雨に降りましたが、開発されていない古の面影を残す京都に触れることができました。2日目の学級選択コースでは北野天満宮での合格祈願や八つ橋作りなどの体験を行いました。3日目は、多くの観光客が訪れる京都の名所を班別で行動しました。初日の大原とは違う京都の姿を見ることができました。外国人の方と触れ合った生徒、学級の仲間の優しさや思いやりに感動した生徒もいたと思います。新幹線から降りてきた生徒たちの顔は満足感一杯の様子でした。「過去を学び、現在を楽しもう」のスローガンのもと中学校生活で一番の思い出になったと思います。



### <学校給食でロシア料理の紹介>

6月14日（木）に開幕したロシアワールドカップにあわせて、栄養教諭が食育の一環として、普段口にすることが少ないロシア料理「ボルシチ」「ロシアンティームース」を献立にしました。

ロシア料理の紹介や作り方、材料となる「ビーツ」の三島市の生産者を紹介するなどした映像資料を栄養教諭が作成し、各教室に設置されている電子黒板で放映しました。生徒の中には、初めてロシ

ア料理を食べた生徒も多かったのではと思いますが、好評でした。なお、この様子は、テレビ静岡や伊豆日日新聞のマスメディアにも取り上げられましたので、御覧いただいた方もいらっしゃると思います。また、学校のブログには、毎日の給食の献立や静岡県産の食材が多く取り入れられている地産地消の状況、献立に対するコメントを掲載しています。御家庭でも子どもたちが食への関心をもてるようご指導をお願いします。



### <三島市中学生の主張大会>

6月9日（土）生涯学習センターで「三島市中学生の主張」が行われました。市内8中学校から2名の代表が日常の生活で感じ取ったことを自分の感性で受け止め、自分の言葉で表現し大勢の大人の前で堂々と発表しました。

本校からは3年生國松さんと湯浅さんが出場しました。國松さんは「真似をすることから自分の色を見つけていくこと」、湯浅さんは「自分の経験からいじめについて」を発表してくれました。また、今回の主張大会では司会も本校の山本さんと豊泉さんが務め、とても落ちついた態度と聞きやすい声で大会を進行してくれました。会場には3年生辻さんの描いた三島市中学生の主張の絵も飾られていました。辻さんの描いた作品は各学校の先生、保護者から大絶賛でした。

北中生が様々な形で活躍した一日になりました。

